

アナフィラキシー（ショック）への対応

日頃からの準備

- 内服薬やエピペン®はすぐに取り出せる場所に保管する（残量・使用期限の定期的な確認）
- 外出時は内服薬・エピペン®を必ず携帯する
- 受診するタイミングとどここの医療機関に受診するかをあらかじめ主治医と決めておく

子どもが倒れていたら

反応の確認（反応なし・呼吸なし）

すぐ
心肺蘇生

5分以内に判断

緊急性が高いアレルギー症状

全身の症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくい・不規則
- 唇や爪が青白い

呼吸器の症状

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸（気管支ぜん息発作と区別できない場合を含む）

消化器の症状

- 持続する強い（我慢できない）お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

1つでも当てはまる場合

ない場合

救急車（119番）を要請
 ただちにエピペン®を使用
 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生・AED使用
 その場で安静にし、救急隊を待つ
【安静を保つ体位】

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため、あお向けで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しくあお向になれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後によりかからせる

立たせたり歩かせたりしない!

数回の軽い咳
 中等度のお腹の痛み
 数回のおう吐
 数回の下痢
 顔全体の腫れ
 まぶたの腫れ
 強いかゆみ
 全身に広がるじんましん
 全身が真っ赤

軽いお腹の痛み（がまんできる）
 吐き気
 目のかゆみ、充血
 数個のじんましん
 くしゃみ、鼻水
 軽度のかゆみ
 数個のじんましん
 部分的な赤み

内服薬を飲ませる

保健室または、安静にできる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察する。
緊急性の高いアレルギー症状が出現した場合は速やかに医療機関を受診する。